

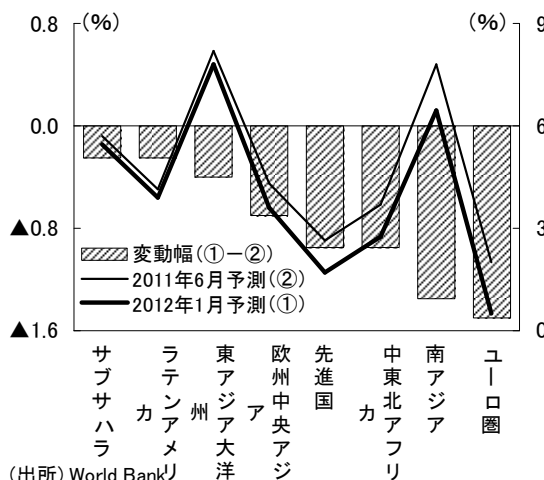


成長加速するサブサハラ

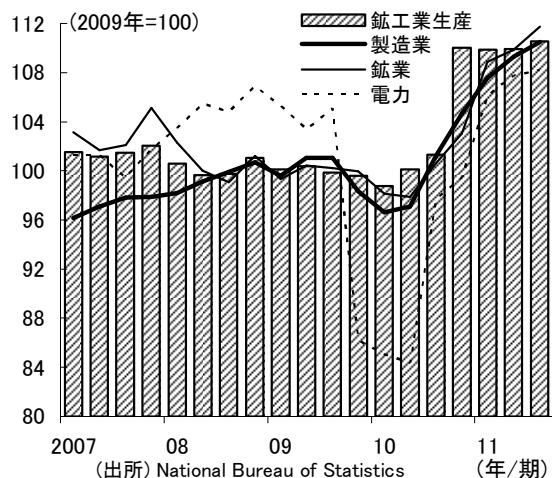
～ 資本流入で投資主導型高成長へ ～

- (1) 欧州危機の影響を主因に多くの国・地域が減速を余儀なくされるなか、サブサハラは引き続き堅調な成長持続（図表1）。世銀が本年1月に発表した最新見通しで大半の地域は▲1%前後、2012～13年の実質経済成長率引き下げ。しかしサブサハラは、成長ペースが5.5%と、7.8%の東アジア、6.5%の南アジアに次いで高成長。加えて、半年前比の引き下げ幅が▲0.25%でラ米と並び最小。さらに13年は5.6%と6%成長が目前。
- (2) 従来、同エリアの牽引役は南ア。しかし近年の高成長は、アンゴラやモザンビークなど資源国も台頭してきたものの、ナイジェリアが原動力。世銀によれば、同国の実質経済成長率は13年7.4%。09年から5年連続7%成長の見通し。これまで同国経済は、原油をはじめ資源開発が成長エンジン。しかし、鉱業生産が06年から弱含むなか、製造業生産が着実に増加（図表2）。鉱物に依存したモノカルチャー経済からの転換が着実に進行。
- (3) 経済成長率をみても、鉱業は06年～09年初までマイナス寄与。09年春以降プラスに転じたものの、寄与度小（図表3）。このところの同国経済の牽引役は所得水準の向上と消費拡大に後押しされた商業や運輸・通信業、農林水産業。
- (4) 同国を含め一段のサブサハラ発展にはインフラを含め設備投資が不可欠。海外からの資本流入の行方が焦点。世銀によれば世界全体として12年以降、直接投資を中心に新興国向け投資が再び盛り上がりへ。エリア別にみると10～11年比、総じて12～13年の投資額が減少するなか、投資額増加はサブサハラのみ（図表4）。同エリアでも投資主導型高成長軌道への成長離陸が視野。

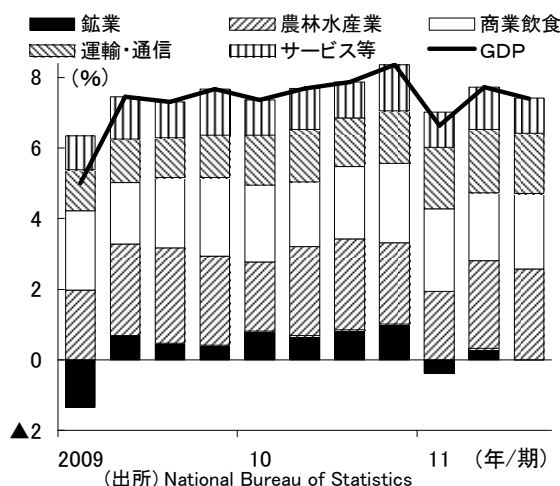
（図表1）2012～13年成長率見通し（世界銀行）



（図表2）ナイジェリアの鉱工業生産（季調済）



（図表3）ナイジェリアの実質経済成長率（前年比）



（図表4）エリア別資本流入見通し（世界銀行）

